

金日成主席とマリ

マリ進歩的学校内チュチュ思想研究会会長
パディアラ・クリバリ

今日世界の進歩的人民は、朝鮮人民の領袖であり、人類解放偉業に貢献した20世紀の政治家である金日成主席の生誕110周年を意義深く慶祝しています。金日成主席の尊名は、全世界の進歩的人民の心の中に刻まれており、依然としてその名声は高いです。

金日成主席の名声は、特に1960年代と1970年代にアフリカ諸国の民族的独立と新社会建設のために陶磁器工場、文化宮殿の建設のように私心のない援助をしたことによってよく知られています。

1964年10月、金日成主席の招請によって、マリ共和国の初代大統領であったモディボ・ケイタ (Modibo Keita) が代表団とともに金日成主席が送ってくれた特別飛行機に乗って平壌に到着しました。

金日成主席は、自ら空港で代表団を迎える、滞在期間、代表団に多くの配慮をめぐらしてくれました。

多忙な国事の中でも金日成主席は、マリ大統領と同行して平壌紡織工場と岐陽トラクター工場、岐陽灌漑施設、台城湖など、首都の周辺の工場と企業所を参観し、マリの新社会建設に必要な貴重な助言をしました。

金日成主席は、マリ人民が独立後、社会主義発展の道を選択し、植民地支配の悪結果を完全に一掃し、民族経済と文化建設、民族幹部養成で大きな成果を収めたことを祝賀しました。

金日成主席は、帝国主義と新植民地主義に反対するための闘争とアフリカの解放と統一のために傾注している努力に全般的な支持を表しました。

マリは、アフリカ諸国の中で金日成主席の大きな物質的および技術的援助を受けた最初の国です。

1965年には縫製工場と精米工場、陶磁器工場、500haの灌漑工事の援助を受け、1970年には3000席の文化宮殿建設、60台の農業機械と125万ドルに達する資材などの援助を受けました。

金日成主席の物質的支援と援助は1991年まで続き、マリの新社会建設に多くの貢献をしました。

それゆえ、マリ人民は、金日成主席を今日まで一時も忘れないでおり、金日成主席を称揚しているのです。

また、わがマリ人民は、1969 年に世界で最初になるチュチェ思想研究組織を結成した大きな誇りをもっています。

マリから始まって世界の多くの国々でチュチェ思想研究および普及活動が活気をおびておこなわれ、今日は整然たる国際的な組織網を形成しています。

マリのプログレ学校には、チュチェ思想を創始した金日成主席の尊名とチュチェ思想を金日成主義に定式化し、自主時代の綱領として豊富化させた金正日総書記の尊名を冠したクラスがあります。

マリのプログレ学校のチュチェ思想研究組織は金正恩総書記が発展豊富化させた金日成・金正日主義の研究および普及活動を活力をもっておこない、両国と両国人民間の友好と協力関係を強化発展させるために全力を尽くします。